

概要 歩くまちの実現のため、地域の住民や事業、その他の関係機関が一体となって、自動車交通に過度に依存しない歩くまちにふさわしい交通体系の確立を目指す。

総合評価 B 平成13及び14年度に実施した嵐山交通社会実験のアンケート調査結果から評価した客観指標評価はAであるが、市民満足度評価はBであるため、総合評価をBとする。

この施策の客観指標評価

客観指標総合評価: A

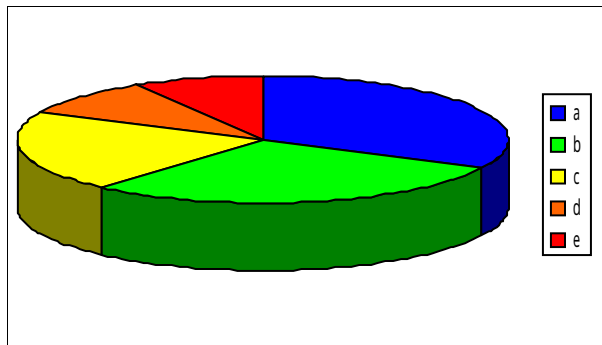
指標名とその前年値, 現在値, 目標値, 達成度

評価

(準)公共交通の利用割合の増加度(%)	79.7	86.5			B'
(準)トランジットモール交通社会実験の歩行者満足度(%)		95.6			A'
(準)パーク&ライド交通社会実験の利用者満足度(%)		95.4			A'

この施策に関する市民満足度評価

環境問題や道路事情のことを考えると、自家用車を控えてなるべくバスを使おうと思う。



答a: そう思う	115	32.4%
答b: どちらかというと思う	103	29.0%
答c: どちらとも言えない	73	20.6%
答d: どちらかというと思う 思わない	33	9.3%
答e: そう思わない	31	8.7%
有効回答数	355	
満足度評価		B

<参考> この施策実現のための主な事業
事業名